

いつの間にか二月になり、  
 暦の上では春・・・のはずなのですが  
 春の雪が都会を中心に降り続いています。  
 被害があっではいけません、雪景色は本当に綺麗で、  
 暖かな部屋で降り積もる雪を見るのもまた良いものですね。



さて、今回もうさおさん、健さんの俳句を拝見しましょう。  
 まず、うさおさんの句です。



#### 夕暮れや雪きしきしと道しろき

や・・・の切れ字があまり効果をあげていないかも。  
 夕暮れの・・・とされた方が自然な感じです。  
 きしきしという言葉は面白い発見だと思います。ただ、道しろき・・・は説明的。  
 \*夕暮れの雪きしきしと降り積もる  
 これで、充分道の白さはわかりますよね。



#### 温(ぬ)くとかね霰にかわる雪の宵

とても良いと思います。ぬくとかね・・・という方言が温かいです。  
 良い句になりましたね。

\*「温とかね」霰に変はる雪夜かな



#### つかの間の北国の街雪融けて

都会に降り積もる雪、まるで束の間の北国のよう。  
 つかの間の・・・と言うより、はっきりと北国のよう、  
 北国と見紛うとする方が句がよりはっきりします。

\*北国と見紛う雪の融け始む





続いて健さんの句です。



### 一坪の菜園仕事風花す

何より季語が良いです。家庭菜園にはらはらと舞って来た雪の欠片  
明るさも感じられ、もうじき春・・・という期待も感じられます。



### 療養の身にも日々あり草青む

冬に病氣療養されるのは本当に心細い事ですね。  
季語の草青むで、その気持ちが少し和らぐ感じを受けます。  
中七も良いですね。  
少し語順を変えると句はしまりますが、柔らかめの原句の方が  
明るいかな？ お身体ご自愛下さいね。

\* 療養の身にもある日々草青む



### 寝ぐらへと帰るカラスや雪時雨

何気なく見上げた雪空、ねぐらに急ぐかのように飛び去るカラス  
本当に何気ない句のようですが、景色がしっかり浮かびます。  
寝ぐら 埒 カラス からす とされると句がしっとりとしてきます。  
\* 埒へと帰るからすや雪時雨



同じ事を詠んでも、少しの言葉選びで、俳句がぐっと生きてくる事もあるのです。  
今回、お二人とも自然に詠まれていて、とても良いと思いました。  
うさおさんの「ぬくとかね」という句、こういう風に会話を入れて俳句を作るのも面白いし、  
「きしきし」というような擬態語（オノマトペ）を使うのも面白いです。  
これからもどんどん新しい試みで作句して下さいね。



関東の方では珍しい大雪との事、まだまだ寒さが続いています。  
それでも良く見ると小さな木の芽や新しい草の若芽が・・・  
春ももうすぐそこまで来ているようです。

### 代々の助六役者寒の雨

白魚の春の命を頂けり

ゆうこ

